

学校教育ビジョン 校訓（建学の精神） 学校教育目標 重点目標		・きたえる ・たかめる ・思いやる 「自らのよさを感じ 自ら考え行動する 作見っ子の育成」 「楽しい学校は、自分でつくる みんなでつくる」3.0 ～自分から～ ～みんなのために～	めざす児童像 ○目標をもって、挑戦する子 ○学びを楽しみ、学びを生かす子 ○人との関わりを大切にし、豊かにつながる子	めざす教師像 ○チャレンジ精神・向上心のある教師 ○授業を大切にし、児童を伸ばす教師 ○チームで、豊かに育てる教師
--	--	--	--	---

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	判定結果(最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	自律した学びを育む授業を通して、「考える つながる 高め合う 作見っ子」の育成を図る。	算数科においては、数学的な見方・考え方を児童が意識できるようにするとともに、数学的活動の充実を図り、児童の主体的に学び続ける姿勢を育成する。 その他の教科では、問いを持ち、主体的に追究し、学びを自覚する児童の育成に努める。	研究主任 教務主任	学年や教科・単元に応じて、児童に学びを委ねる授業を実践してきた。今後は、算数科を中心に、単元構想シート等を活用し、これまで以上に教科の本質に迫る主体的な学びを促す工夫を推進する。	【成果指標】 目指す授業像に基づいて自律した学びを育む授業改善に努めている。	自律した学びを育む授業改善に努めているという教職員が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A	A	教職員の肯定的回答は100%となった。算数科で導入している『着目ポイント』は、教師と児童の共通言語として効果を発揮している。また、算数科のみならず、授業は教師主導から、児童が自律し、主体的に学ぶ形へと転換していることが、日々の実践から見取れる。これまでの取り組みを活かし、授業のさらなる質の向上を目指し教材研究を進める。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	共感的な人間関係を育む	いいね作見小やしゃべくり393の取り組みを通して、共感的な人間関係を育む。	生徒指導主事	児童の自己肯定感や自己有用感をさらに高めるために、たくさんの人から認められる経験を重ねていく。いいね作見小やしゃべくり393の取り組みを生かして、共感的な人間関係を育む。	【成果指標】 いいね作見小やしゃべくり393の取組を積極的にやっている。	「友達の良いところを見つけたり、たくさんの友達と話すことができた」という児童が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1, 2学期末に児童にアンケートを実施する。	A	A	肯定的な回答が100%近い回答であり、これまでの取り組みの成果が現れている。これまで以上に取り組みを充実させるようにしゃべくり393を毎週火曜日の朝に全校で行い、共感的な人間関係の構築を目指す。
	誰とも学び合える授業づくりを働きかける	生徒指導の4つの視点を生かした授業づくりの実践を積み重ねることを通じて、いじめの未然防止につなげられるよう取り組む。	生徒指導主事	昨年度生徒指導の4つの視点を生かした授業づくりについて研修を行い、理解を深めた。今年度は授業実践を積み重ねたり、公開授業で話し合ったりなどして意識を高めていく。	【成果指標】 生徒指導の4つの視点を生かした授業づくりを行っている。	「生徒指導の4つの視点を生かして児童に声掛けを行った」という教職員が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A	A	生徒指導4つの視点で授業を参観することにより、教職員の意識が高まっている。良かった取り組みを紹介することにより、本来のねらいである児童が安心して授業に取り組める土台作りをしていく。
③キャリア教育・進路指導	自分の良さに気づき、自ら考えて行動する児童の育成を図る。	行事を中心に日常生活の中で自分の良さに気づき、自ら考えて行動するための指導を行う。また、キャリアパスポートを活用し、1年間のめあてを立て、学期ごとに振り返りを行う。	キャリア教育担当	自分の良さを実感できていない児童が多い傾向がある。各種行事や代表委員会を中心に、児童に活躍する機会を与えていく。その中で、児童が主体となって学校を作っている実感を持っていくようにしていく必要がある。	【成果指標】 児童は自分に良さがあると感じている。	「自分には良いところがある」という児童が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	年度当初、1, 2学期末に児童にアンケートを実施する。	B	B	「児童は自分に良さがあると感じている。」と回答した割合89.9%であり、前回よりも確実に増えている。来年度も授業ごとのふりかえりを行って自分の成長を感じたり、児童同士でのいいところ探しなどの活動を取り入れたりと自己肯定感の向上を目指していく。
④保健管理	早寝早起きに対する意識を高める。	委員会活動で早寝早起きのよさを全校児童に啓蒙する。 ・学校保健委員会で早寝早起きに対する児童と保護者の意識を高め、早寝早起き月間を設定し早寝早起きの習慣づけを図る。	保健主事 養護教諭	これまでのすこやかカードの取組から早寝早起きができるようになっていない児童が多く見られるので、早寝早起きに対する意識を高める必要がある。	【努力目標】 早寝早起きに意識して取り組んでいる。	「早寝早起きに意識して取り組んだ」という児童が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	1, 2学期末に児童にアンケートを実施する。	B	B	早寝早起きを意識して取り組んでいると回答した児童は77.2%で、1学期と変化がみられなかった。睡眠の大切さについては理解しているが、ゲーム依存の傾向や家庭環境の多様化もあり、望ましい睡眠習慣の定着には至っていない。メディア依存などが及ぼす健康被害について周知し、生活習慣の改善を図る。
⑤安全管理	児童の情報モラル・セキュリティに対する意識を高め、ネットの適切な使い方を実践する。	保護者と連携しながら、家庭におけるゲームやインターネットのルール（デジタルファミリールール）を作成し、適切な利用を行えるようにする。	生徒指導主事	情報通信端末を発達とした児童同士のトラブルが見られるようになり、今後大きなトラブルに発展する可能性がある。そのため全ての児童が適切に情報通信端末を扱えるように児童の意識を高める必要がある。	【成果指標】 ゲーム・インターネットに関するルールを作られている。	「お家の人とのゲームのルールを作っている」と答えた児童の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1, 2学期末に児童アンケートを実施する。	C	B	児童アンケートの割合が77%から86%に上昇した。保護者アンケートは変わらず100%であり、2学期の取り組みの成果が現れた。しかし、どの家庭もルールを作っているはずなのに浸透していないことを考え、児童にももっと取り組みの共通理解が必要である。
⑥特別支援教育	特別な支援を必要とする児童について理解を深め、支援のしかたを検討し実践する。	児童の実態をつかみ、適時校内支援委員会を開いたり専門相談につなげたりしながら、より効果的な支援のしかたを検討、実践する。	特別支援教育コーディネーター 教育相談担当	校内支援委員会でケース会議などを働き、専門相談につなげたり支援の方法を検討したりしている。それぞれのケースについて、支援の方法を探っていくことが必要である。	【努力目標】 支援委員会で、具体的な支援のしかたを決めて、実践しようとしている。	具体的な支援を行うことができたという教職員が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A	A	担任や保護者からの困り感や要望を聞き、専門相談やSCにつなげたり、ケース会議を開いたりして、支援方法を検討し、個に合った支援をしてきた。年度代わりの引継ぎをしっかりと、個々のケースについて共通理解し、組織的に対応していきたい。
⑦組織運営・業務改善	校務分掌やPTA活動の重点化や精選を進める。	運営委員会を活用し、学校経営ビジョンを元に、学校長の目指す学校づくりを共有し、それに従い、業務の重点化や精選を進めていく。	教頭	業務改善の意識は高いが、担当業務による時間外勤務時間の偏りが見られる。どの取り組みを重点とするかや、行事や活動の目的を明確にし、企画・実行していく。	【努力目標】 質の高い教育活動に向け、業務の重点化や精選に取り組む。	「質の高い教育活動に向け、業務の重点化や精選が進んだ」と回答した教職員が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 60%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	B	A	「業務の重点化や精選が進んだ」と肯定的な回答をした割合は82%→85%となった。「大いにあてはまる」としたA回答が9%→25%と向上、反対に「全くあてはまらない」としたD回答が5%→0%と減少した。ただ、時間外勤務がまだまだ多い。今後も、PTAとも連携しながら行事や活動の重点化に取り組んでいく。
⑧研修	教員の情報活用能力を育成するための研修を実践する。	PC活用講習会を実施することを通して、日々の実践の交流やPCの使い方、PCを効果的に活用した授業づくりについて教員が学ぶ機会を設け、実践を積み上げる。	教務主任 GIGA推進リーダー	PCの扱いには慣れてきているが、教科の特質に応じた活用やより効果的な実践の機会を増やす必要がある。	【成果指標】 PC活用講習会等の校内研修を経て、教科の特質に応じた活用をする。	研修会を経て、以前より効果的にPC等を活用した授業を行ったと答えた教職員の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A	A	職員アンケートの割合が91%から95%に上昇した。授業の色々な場面でPCを効果的に活用しているという先生方の意欲が高い。今後、学校研究と連携を取りながら校内で必要な研修を臨機応変に行っていく。
⑨保護者、地域との連携	学習活動について地域・保護者と連携し、開かれた学校を目指す。	学習の成果物について保護者の感想をもらったり、学校での学びを生かして家庭で取組を行ったりする場を設定したり、OS等により地域の方の力を借りて、より良い学習活動に取り組む。	教頭	家庭や地域と連携し、より良い学習活動につなげていく。また、学校の取り組みが保護者により伝わるように工夫する。	【努力目標】 学習の中で、家庭や地域との連携を意識した取組を行っている。	授業等で家庭や地域と連携した取組を行ったと回答した教職員が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 50%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	B	A	肯定的な割合が85%、否定的な割合が15%となった。CSIにも協力をいただきながら、様々な形で地域と連携を進めてきた。達成度判断基準の「家庭との連携」という意味で、評価が少し低く抑えられたと分析している。良い連携を構築できていると考えるので、今後も活動を見直ししながら、連携を深めていく。
⑩教育環境整備	児童の安全安心の確保および、より良い学びを実現するための環境を整備する。	より良い学習環境の視点を持って、教室環境を整備するとともに、学期に一度、管理場所の安全点検を行い、不備な箇所については報告し、速やかに対応する。	教頭	不備な箇所の修繕は進んでいるが、今なお修繕が必要な箇所が複数ある。今後も可能な限り改善を進めていく。	【努力目標】 施設の不備を未然に察知することで、改善を行う。より良い学びの実現にふさわしい環境づくりを心掛けている。	より良い学習環境の構築の視点を持って、教室環境整備や安全点検に取り組むことができた教職員が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 60%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A	A	「より良い学習環境の構築の視点を持って、教室環境整備や安全点検に取り組むことができた」と肯定的に回答した教職員が100%であった。引き続き、施設の不備が生じたら、早急に連絡・相談し改善につなげていく。

学校関係者評価	(最終評価) ・⑤オーストラリア等では、子供のSNS利用を2時間以内にすること等、法律で規定し始めている。一方、国内では学校内の暴行動画の拡散など騒がれている。危険性を周知しなければならない。子供は、年々ICT機器やゲームに依存してきている。家庭は、敏感に捉えてほしい。アンテナを張り巡らせて子供に「ダメやぞ」と言える人間関係を作っておかなければならない。保護者に向けて、PTAで啓発していくとよい。学校では授業参観後の学年懇談会や4年のいじめ被害防止講座をはじめ、情報モラル教育をしていくとよい。 ・⑦学校運営協議会及びPTAの会の開始時刻が19時からである。18時から行っても良いのではないかと。次年度、提案していくとよい。 ・⑩令和8年度も学校プールを利用する。プール横の竹やぶの笹がプールにたくさん入り込んでいるので、竹やぶの対策をしなければならない。地主さんは、下出さんや高野さん等であるので、町の方でも伝えていく。学校の環境整備で困っていることがあれば言ってほしい。
---------	--